

松本地区労組会議データ File 通算 No.245

2016/11/3 松本地区労働組合会議 〒390-0811 長野県松本市中央 4-7-22 松本勤労会館内
Tel: 0263-33-9513/Fax: 0263-33-6000/Email: ape03602@go.tvm.ne.jp

1. 子供がセシウムを吸い込む”被ばく” イベントが福島で決行された！

女性自身

投稿日: 2015年10月28日 06:00 JST



「復興の役に立ちたいから参加しました。”6国”がきれいになったら、除染作業員さんも作業しやすくなる。放射能？ 私は気にしていません。積極的に参加してほしい」

そう話すのは、10月10日に国道6号線沿いで実施された清掃活動に参加した、相馬東高校一年生の女子生徒。彼女は帰還困難区域となっている浪江町の出身だ。

「自宅には戻れないから家族で相馬市に避難しています」

そう言って目をうるませた。

『みんなでやっぺ！ きれいな6国』と題したこの清掃イベントには、地元の中高校生ら約200人を含む千400人あまりが参加。しかし、6国といえば、昨年9月に全線が開通したものの、福島第一原発の間近を通るため、いまだ車内でも毎時10 μ svを越える場所がある高汚染エリアだ。

前出の女子高生と話しをした「道の駅・相馬」も今回の清掃拠点のひとつ。取材班は地元で測定活動をする「ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクト」の小澤洋一さん、深田和秀さんとともに近辺の土を調べてみた。

すると、なんと4万Bq(ベクレル/平米)で適用される、放射線管理区域の4倍以上、事故前の140倍以上(注1)もある16万4千Bq(ベクレル)/平米(注2)の放射性物質が検出された。

放射線管理区域とは、一般人は立ち入り禁止、放射線従事者でも10時間以上の滞在は禁止と法令(電離放射線障害防止規則・労働安全衛生法に基づく)で定められている場所。そんなところで子供に清掃活動させるのは違法行為では? だが、主催者のチラシを見て合点がいった。

“後援”には、国土交通省や環境省、復興庁、地元自治体などの名がズラリ。“協賛”には、東京電力や東北電力までが名を連ねている。子供を使って、形だけでも「復興」をアピールしたい。このイベントから、なりふり構わぬ国の思惑が透けて見えた。

記者は事前に、主催のNPO法人ハッピーロードネット(福島県広野町)に「現場は安全なのか?」と問い合わせたところ、「留守番の者」と名乗る女性がこう答えた。

「帰還困難区域には入りませんし、放射線量の高い富岡町や浪江町などは、大人だけで清掃するので(子供の)安全は確保されています」続けて、「そういう問い合わせが多くて困っているんですね」

と、グチをこぼす始末。

子供の被ばくを案ずる全国の母親たちから、開催の見直しを求める電話やファクスが連日寄せられていたという。

さらに、開催の数日前には、市民団体「子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト・郡山」が、全国66の賛同団体をつのり、開催中止を求める提案書を福島県と教育委員会に提出していた。が、結局どこも取り合わず、この危険極まりないイベントは予定通り決行されることになった。

空間線量が低くても、土中には原発事故前の100倍以上の放射性物質があるんです

10月10日、朝9時。開会式の会場となった二つ沼公園(福島県広野町)には、地元住民や、中高生ら数百人が集まった。開会式のあいさつで主催の西本由美子理事長(62)は、清掃活動をするに至ったワケをこう説明した。

「相馬市の高校生が提案してくれました。『国道にゴミがたくさん捨てられているのは、ふるさとを大事にしていない大人がいるから。僕たちでできることをして、大人たちに示していこうよ』って」

「子供が清掃したいと言うから開催した」と言いたいらしい。寄せられた批判の隠れ蓑に子供を使おうというのか。

開会式後、記者は清掃に出発する子供たちにこのイベントに参加した理由を聞いた。

「所属しているサッカー一部のみんなが参加するから。6国がキレイになったら、避難している人が帰ってきてくれるかなと思って。放射能の影響? 難しいからよくわからない。特に気にしていません」(ふたば未来

学園高校一年・男子)「私は学校の美化委員だから参加しなくちゃいけない。放射能? とくに注意点などは聞いていません」(同一年・女子)

引率の先生の考えはどうか。

「ここは学校の通学路ですし、とくに放射性物質が集まりやすい側溝などに近づかなければ大丈夫でしょう。空間線量も下がってきていますから」

そう先生が話し終わらないうちに、近くの植え込みでピーピーという放射線を検知する音が。記者が駆けつけると、前出の深田さんが、生徒がゴミを見つけて拾った道路横の植え込みを測定していた。

空間線量は毎時0.37 μ sv。環境省の除染基準、毎時0.23 μ svを超えている。土中からは、放射線管理区域の4倍の15万9千Bq/平米もの放射性物質が検出された。

「空間線量が低くても、土中には原発事故前の100倍以上の放射性物質があるんです」

と小澤さんは指摘する。



後日、現場で拾った吸い殻や紙くずなどに付着している放射性物質を測定してもらると、一般ゴミからは890Bq/kg、吸い殻からは600Bq/kg、小澤さんが測定時に利き手にはめていた軍手からは421Bq/kgという数値が出た。

「法令(核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律)に従えば、100Bq/kgを越える汚染物質は、ドラム缶に入れて厳重に管理しなければならない。なのに、それをはるかに越える汚染ゴミを、子供に捨わせるなんてどうかしています」(小澤さん)

このあと取材班は、6号線を車で北上し、別の清掃エリアである「道の駅・南相馬」へ向かった。途中、清掃エリアに入っていないはずの富岡町検問所付近で清掃隊を見かけたので、車を降りて付近を測定すると、毎時 5.92 μsv あった。土中からは、事故前の 8 千 900 倍近い 1 千 40 万 Bq/平米が出た。それもそのはず。前方には、「ここから帰還困難区域」という看板が。

ここから浪江町までの約 6.5 キロは、年間被曝量 50 ミリシーベルトを越えるエリアとして立ち入りが制限されている。二輪や自転車での通行は禁止、車外に出ることも禁止なのだ。

だが、看板のむこうには、オレンジ色の T シャツを着た清掃隊の人々が、ゴミを拾いながらゆったり歩いている。

「汚染エリアに入ると放射性物質をあちこちに運んでしまうから危険です」(小澤さん)

実際に、この日、小澤さんが付けていた靴カバーを測定したところ、450Bq/kg の放射性物質が検出された。



しかし、さらに深刻な事実が明らかになる。当日、小澤さんが約5時間付けていたN95 という防塵マスクから、なんと 20.6Bq/kg の放射性物質が検出されたのだ。測定してくれたちくりん舎(NPO 法人市民放射能監視センター)の青木一政さんは、次のように指摘する。

「N95 のマスクは 0.1~0.3 ミクロン程度の粒子まで吸着します。このマスクをしていなかったら、1ミクロン以下の粒子まで肺の奥に吸い込んでいた可能性があります」

この日、マスクや軍手を付けている子供はほとんどいなかった。

「放射性セシウムには水溶性と非水溶性のものがあり、非水溶性のものは、体内に取り込まれると4～5年くらい排出されず、心臓にとどまって放射線を出し続けます。結果、若くても心筋梗塞などになるリスクが上がるのです」

と話すのは、呼吸器や放射線の専門医である松井英介氏。

「もっと心配なのは、ストロンチウム 90 です。こちらは測定すらされていませんが、セシウム 10 に対して1の割合で存在しています。特に原発周辺は多いと言われています。これは人間の血液を作っている骨にたまるので、白血病などのリスクが上がる。わざわざ子どもにリスクを押し付けるなんて犯罪的です」(松井氏)

松井先生によると、風邪予防のマスクでは取り込みを防げないという。汚染されたホコリを吸い込むリスクを子供に負わせてまで、このようなイベントを決行したのは、そもそもなんのためか？ 主催 NPO に何度も電話したがずっと留守だった。

NPO のホームページには、「汚染水はコントロールされている」と、五輪誘致で世界に“放言”した安倍総理と満面の笑みの西本理事の写真が。彼女自身「聖火リレーを 6 号線に」と、再三インタビューで答えている。子供をリスクにさらす先に見えているのは、国家的規模のイベントなのか。

国も福島県も調査しようともせず、あくまで国が立ち入りを制限しているエリア以外は「すべて安全」という立場を崩さない。

「原発が爆発しても、それでうるおっている人間がいるから、その理不尽さを払拭するために子供を利用している」

と指摘するのは経済学者で東京大学教授の安富歩さん。

「放射能がばらまかれた福島の子供が尻ぬぐいするなんて理不尽極まりない。本当は東電がやれって話し。でも、一度そういう理不尽なことを飲み込ませると、あとは言うことを何でも聞く都合のいい人間に育つ。国家としては、従順な人間を増やす目的もあるんでしょう」(安富さん)



清掃活動が終了した正午、「道の駅・相馬」の広場で閉会式に参加していた高一の男子生徒は、記者にこう言った。「放射能が危ないことも、ここが汚染されていることも知っています。だけど、僕はまだ学生だから自分の判断で動くことができない。母には、なるべく地元の食材は使わないで、と言っているけど」

彼はリスクを承知していながらも、「いろんな経験を積みたい」と、この清掃活動に参加した。将来の夢は看護師になることだ。進学に合わせて福島を離れるつもりだが、「中1の妹が心配だ」とも……。

後日、「後援」に名を連ねる環境省福島環境再生事務所に汚染の実態を知らせると、「清掃コースの放射線量は確認してないのでわからない。主催はハッピーロードネットなので」と無責任な答え。さらに福島県も、「立ち入り制限されているエリアには入らないと聞いているので安全なのでは？ 吸い込みによる被曝リスクがあることは承知しているが、県から開催の見直しを求めることはできない。主催はハッピーロードネットだから」と、環境省に輪をかけた無責任ぶりを披露。

環境省も福島県も、あくまで国が立ち入りを制限しているエリア以外は「すべて安全」という立場を崩さない。調査しようともせず、「主催者の問題だから」と、NPOに責任をなすりつけてオワリなのだ。共催している東電も、「“復興”に関する事業には積極的に協力させていただいております！」との能天気な返答。西本理事に至っては、「子供の希望があれば来年も開催する」と他メディアの取材に答えていた。

国も東電も主催者も、見せかけの「復興」に邁進し、健康リスクは子供に押し付ける。こんな卑劣な行為を止めさせるために、大人たちの責任が改めて問われている。

※注1

09年度文部科学省「日本の環境放射能と放射線」の福島の土壌測定値 18Bq/kgを平米あたりに換算(65倍)したものと比較。

※注2

一般に放射能汚染を表す単位は Bq/kg が用いられているが、土壌の汚染に関しては放射線管理区域の管理基準やチェルノブイリ原発事故との比較のため、Bq/平米に換算している。文中の放射性物質は、すべて測定時における放射性セシウム 134 と 137 の合算値。

(取材・文／和田秀子)

東京電力福島第一原発事故後に、県内で捕獲された野生のツキノワグマやカモシカの一部で腎臓に高濃度の放射性セシウムが蓄積している実態が、県食肉衛生検査所(玉村町)と県立自然史博物館(富岡市)の共同研究で分かった。県内では事故後からツキノワグマやイノシシなど野生鳥獣4種類の出荷制限が続くが、依然として解除に至らない背景や原因を考える上で注目される。(菅原洋)

野生の **ツキノワグマ** **カモシカ** の一部

県食肉衛生検査所と県立自然史博物館

研究成果は二月、秋田県で開かれた日本獣医師会の

獣医学術学会で発表した。一年三月の事故前と比較する
ため、一〇年十月から一



牛肉の放射性物質を測定する職員＝玉村町で

原発事故後 共同研究で判明

腎臓に高濃度セシウム蓄積

群馬

スズキ時計店

ドイツ製の振り子動く機械式
手作り腕(ハト)時計の
修理・調整
群馬県富岡市
(富岡市に近いです)



沼田市上之町839
TEL.0278-22-3459
営業9:00~19:00
(水曜日は13:00~19:00)
<http://www.ayatori.net>

県内の天気

	きょう	あす
沼田		
前橋		
太田		

きょうの予想 (前橋)

2. 稲田防衛大臣たちが「神武天皇の偉業に立ち戻り・・・」。日本国憲法が公布された日として祝日にされた文化の日を、明治天皇が生まれた明治の日に変えようとしている。



「文化の日」は、1946年11月3日の憲法公布を受けて、1948年施行の祝日法で制定されました。当時の国会審議では

「戦争放棄を宣言した重大な日」

であることから

「自由と平和を愛し、文化を進める日に決めた」

とされる日です。じっくりかみしめたいと思います。

ところが、明治天皇の誕生日である11月3日を「明治の日」にしようと、祝日法改正運動を進める団体が2016年11月1日、国会内で集会を開きました。

集会を開いたのは「明治の日推進協議会」(塚本三郎会長＝元民社党委員長)です。

同協議会は2011年に結成され、安倍首相のブレーンの一人とされる伊藤哲夫・日本政策研究センター代表、大原康男・国学院大名誉教授、ジャーナリストの桜井よしこ氏らがおなじみの右翼団体日本会議系の面々が役員に名を連ねています。

この日の集会には約140人が参加。明治の日の実現を求める約63万8千筆の署名が自民党の古屋圭司選対委員長に手渡されました。安倍晋三首相に近い古屋氏は

「かつての『明治節』がGHQ(連合国軍総司令部)の指導で大きく変わることを強いられた。明治の時代こそ大切だったと全ての日本人が振り返る日にしたい」

と決意を述べました。

稲田朋美防衛相も

「神武天皇の偉業に立ち戻り、日本のよき伝統を守りながら改革を進めるのが明治維新の精神だった。その精神を取り戻すべく、心を一つに頑張りたい」

と語ったというのですが、神武天皇って神話上の人物で実在の人物じゃないですからね。

浦島太郎や金太郎や桃太郎の偉業に立ち戻り、って言っているのと変わりませんから、何ら合理性がありません。



同協議会は明治維新から150年の節目にあたる2018年の実現に向け、超党派での国会議員連盟発足を目指していますが、国会議員の参加は14人で、うち自民党以外は2人とどまったそうです。民進党からは鷲尾英一郎衆院議員が参加したそうです。

妄想は妄想のまま、文化の日を潰して明治の日にするなんていう暴挙はやめるべきです。

参加者の傑作発言

《青山繁晴参院議員(自民)》西洋の憲法と、日本語の憲法は全く別物だ。私たちの憲法は古代の十七条の憲法に始まり、それが近代化されたのは明治憲法ではなく、本来は五箇条(かじょう)の御誓文。御誓文こそ、私たちの本来の憲法だ。「明治の日」が制定されれば、そういう根幹に立ち返ることを子どもたちに話すこともできるのではないか。

←この人は近代立憲主義憲法とは何かが全く分かっていない。封建主義憲法に戻りたいらしい。

内閣総理大臣 安倍晋三 様
衆議院議長 大島理森 様
参議院議長 伊達忠一 様

沖縄県民の民意尊重と、基地の押し付け撤回を求める 全国統一署名

日本全土のわずか0.6%にすぎない沖縄に、在日米軍専用施設の74%が集中していることは周知の事実です。

その結果、沖縄が日本に復帰した1972年以降も、米軍人等による犯罪は後を絶たず、復帰後44年間だけでも5910件にのぼり、うち凶悪犯罪は575件を占めています。2016年4月にも、ウォーキング中の20歳の女性が元海兵隊員に殺害されました。加えて、戦闘機など米軍機による耐え難い爆音被害の実態は、司法も認めています。10万人余の県民大会が配備撤回を求めたオスプレイの訓練による被害は、自治体の調査でも激しさを増しており、「運用協定」などは米軍優先で空文にすぎなくなっています。

沖縄県民は幾度も、県民大会や国政選挙、自治体選挙で、また県議会や市町村議会で、米軍基地の県内移設に反対する意思を示してきました。2013年1月には、県議会議長と全議員、市町村関係4団体の長、全41市町村長と市町村議会議長の連名による、オスプレイの配備撤回と普天間飛行場の閉鎖・撤去、県内移設の断念を求める「建白書」を携え、安倍首相に直訴しました。

にもかかわらず政府は、新基地建設に反対する非暴力の抗議行動に対して、沖縄県外から数百人もの機動隊を投入して弾圧・排除しつづけています。これは人権と民主主義の理不尽な否定にほかなりません。

また、辺野古新基地とオスプレイ・パッドの建設が、ジュゴンやサンゴなど貴重な海洋生物の生命を奪い、ヤンバルの森のかけがえのない生態系を破壊することは明らかで、国際的にも批判されています。

このようなことから、私たちは次の事項の実現を求めます。

【請願事項】

- 一、名護市辺野古への新基地建設をやめること。
- 一、全国各地へのオスプレイの配備に反対し、とりわけ東村、国頭村にまたがる北部訓練場でのオスプレイ・パッドの建設工事を直ちにやめること。
- 一、危険な普天間飛行場はただちに閉鎖し、すみやかな返還を実現すること。
- 一、沖縄駐留の米海兵隊を撤退させること。
- 一、不平等な日米地位協定を抜本的に改定すること。

名	前	住	所

署名用紙の送り先:〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-15 塚崎ビル3F 総がかり行動実行委員会 第一次集約/2017年1月10日

呼びかけ団体 基地の県内移設に反対する県民会議

☎ 098-833-3218 (沖縄平和運動センター)

「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会

☎ 090-3910-4140 (一坪反戦地主会関東ブロック) ☎ 03-6382-6537 (沖縄意見広告運動) ☎ 03-3363-7561 (ピースボート)

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

☎ 03-3526-2920 (1000人委員会) ☎ 03-3221-4668 (9条壊すな！実行委員会) ☎ 03-5842-5611 (憲法共同センター)

取扱い団体

